

製品名: DCC ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09832**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	160kDa

抗原情報

遺伝子名	DCC
別名	DCC; IGDCC1; Netrin receptor DCC; Colorectal cancer suppressor; Immunoglobulin superfamily DCC subclass member 1; Tumor suppressor protein DCC
遺伝子 ID	1630.0
SwissProt ID	P43146
免疫原	抗血清はヒト DCC 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

背景

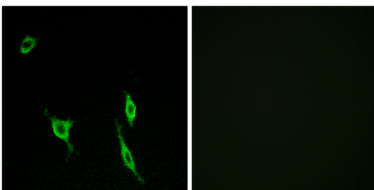
この遺伝子はネトリン 1 受容体をコードしています。この膜貫通タンパク質は細胞接着分子の免疫グロブリンスーパーファミリーに

属し、神経細胞の成長円錐をネトリン 1 リガンドの供給源へと軸索誘導します。細胞質末端はチロシンキナーゼ Src および接着斑キナーゼ (FAK、別名 PTK2) と相互作用し、軸索誘引を媒介します。このタンパク質は部分的に脂質ラフトに局在し、リガンド非存在下でアポトーシスを誘導します。このタンパク質は腫瘍抑制因子として機能し、大腸癌および食道癌において頻繁に変異またはダウンレギュレーションが認められます。[RefSeq 提供、2009 年 10 月]疾患: 粘液産生細胞への分化能を失った大腸腫瘍は、一様に DCC の発現を欠いています。対立遺伝子欠失および/または点突然変異による DCC の不活性化は、食道扁平上皮癌のリンパ行性転移と血行性転移の両方を引き起こす可能性がある。機能: 軸索誘導に必要なネトリンの受容体。発達中の神経系において、リガンド結合時に神経成長円錐の軸索誘引を媒介する。UNC5 タンパク質との結合は、軸索反発のシグナル伝達を誘発する可能性がある。また、ネトリンリガンドと結合していない場合は、アポトーシス誘導に必要な依存性受容体としても機能する。腫瘍抑制遺伝子として関与している。PTM: ユビキチン化; SIAH1 または SIAH2 によって媒介され、その後プロテアソーム分解を引き起こす。類似性: 免疫グロブリンスーパーファミリーに属する。DCC ファミリー。類似性:4 つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含みます。類似性:6 つのフィブロネクチン III 型ドメインを含みます。サブユニット:UNC5A、UNC5B、UNC5C、およびおそらく UNC5D の細胞質部分と相互作用します。組織特異性:中枢神経系と末梢神経系の軸索、および腸の分化した細胞型に存在します。、

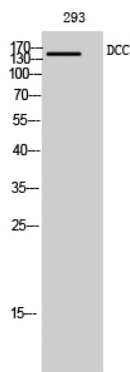
研究分野

軸索ガイダンス;がんにおける経路;大腸がん;

画像データ



DCC 抗体を用いた LOVO 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



1: 500 に希釈した DCC ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析